

### 藤崎町老連 専門部の紹介 (三) 【レクダンス部】

今回は、全国老人クラブ連合会主催の第49回「全国老人クラブ山形大会資料」の紹介記事を掲載します。

#### ステップ!! ステップ!! ステップ!!

あなたも私も令和を健康で楽しく

1 代表者	古館 容子
2 連絡先	大字榊字亀田二一四五 但六五 三八八五
3 会員数	21名
4 活動日	夏季(月)19時〜21時 冬季(金)13時30分〜15時30分 常盤生涯学習文化会館
活動	活動日の時間帯に気軽においで下さい 選曲は部で準備しています。
見学	代表者または常盤生涯学習文化会館へ電話で連絡。
入部	

#### 一、活動を始めたきっかけ〜レクダンス部の歩み

藤崎町はリンゴ品種「ふじ」発祥の地で、今年で誕生80年です。部員の16名はリンゴ栽培農家です。レクダンスは振り付けが簡単で軽い体操のつもりで楽しく覚えられます。昔懐かしい「高校三年生」「銀座カンカン娘」や、また、現在流行している「USA」「五輪音頭2020」「ねぶた」等を夜間2時間のレッスンで、農作業の疲れ・ストレスを解消して笑顔で楽しんでいきます。講師は元小学校長の蝦名昭逸先生(81歳)で、オーケストラや合唱団の指導者でもあり、とてもパワフルな方で、私たちのお手本です。

出会いは、平成18年、作家「太宰治」生誕の地である金木町(現五所川原市) 芦野公園の桜まつりに出掛けたときで、湖上ステージで50人位の高齢女性たちが、とても楽しく踊っていました。振り付けステップが私たちにも続けられそうでした。翌年にメンバー10人が集まり、湖上ステージを観て、蝦名先生に講師依頼を交渉し、その場でレクダンス部を立ち上げました。その後、毎年5月4日には芦野公園湖上ステージで私たちも出演し10年になります。しかし、残念ながら当時のメンバーは高齢化し、現在は二人だけとなり、後輩を指導・応援しています。

#### 二、町の地域活性化で活動のPR

町内会の祭り、福祉施設慰問等でとても出番が多く、農繁期の慰問の時は、畑から慰問先で踊り、すぐ後に化粧も落とさず畑の農作業に行くメンバーもおり、とても頼もしい限りです。

発行者  
藤崎町老人クラブ連合会  
広報委員会  
藤崎老人福祉センター内  
電話 七五―三三三―

衣装はタンスの底に眠っている古い昔の着物をメンバーが持ち寄ってリメイクしております。

平成28年より町の事業である「ふじさき地域活性化助成事業」(5年継続条件)に取り組みました。

た。レクダンス講習会、舞台発表、また、活動内容を町内外にポスター・チラシ等を作成し、アピールしています。

「ふじさき地域活性化助成事業」の発表会では、平成28年に「グッドディスプレイ賞」、平成29年に「町づくり賞」令和元年には「ユニーク賞」を受賞しました。

#### 三、主な出演依頼

(イ)藤崎町関係

・福祉課の介護予防教室・町チャレンジデー

(ロ)町老人クラブ連合会関係

・中南郡老連芸能発表会・青森県老人クラブ連合会芸能発表会・健老の集い・東日本震災被害地 岩手県

田野畑村 仮設住宅慰問(歌とレクダンスの発表)

四、活動がもたらした成果〜私達が大切にできたこと

人生百年の時代になりました。私達メンバーは「健康維持」と「活力ある生きがい」「仲間の絆」を大切にして、共に声掛け合い楽しい人生を送りたいと思っています。

「冬枯れや 百歳までと 想うたに」…(作者不詳)を合い言葉に頑張っています。

私達レクダンス部は今年2月まで活動をしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、全ての活動を休止しております。部員一同コロナウイルスには負けまいと、お互いに声かけ合い、必ずまた舞台上で元気に踊ろうと励まし合っています。



「俵積み唄」(県老連芸能発表会) リンクスティーション青森 令和元年9月28日



日	曜	行事	時刻
1	火	囲碁・将棋部	12:30
2	水	役員会	10:00
3	木	囲碁・将棋部	12:30
4	金		
5	土		
6	日		
7	月	芸能部	12:00
8	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
9	水	茶道部	13:00
10	木		
11	金		
12	土	ふじ健大OB会	9:00
13	日		
14	月	生け花部 芸能部	10:30 12:00
15	火		
16	水	茶道部	13:00
17	木		
18	金	囲碁・将棋部	12:30
19	土		
20	日		
21	月	芸能部 広報委員会	12:00 13:30
22	火	日本舞踊部 囲碁・将棋部	12:00 12:30
23	水		
24	木	囲碁・将棋部	12:30
25	金		
26	土		
27	日		
28	月	生け花部 芸能部	10:30 12:00
29	火	年末休業 【白寿】配布日	10時以降
30	水		
31	木		

#### 最近【白寿】を読んで感じたこと

今月(十一月号)の【白寿】を班長さんが持って来てくれたので、日付と第何号かに眼が移った。日付はともかく【白寿】は発行されてからもう一八二号になっていた。よくも老連の機関誌として約一八二号まで続けてこられてきたものだと率直に感じた。

毎回思うことだが老連の新聞でありながら一般会員(私をも含めて)の投稿、意見などがあまり見当たらないように感じる。その中であって毎号「歯無しの話」として佐藤透先生の医学から自然・日常生活に至るまで参考になることが、いっぱい書き続けられていることに感謝したい。

佐藤透先生の「歯無しの話」も一〇四回も続けられている。【白寿】の一八二号は1年に12回が続いたとしても10年で二〇〇回、単純計算でも一八〇号で15年にもなる。広報委員会の編集諸氏にも頭が下がることしきりである。近年、全国的にこの単位クラブでも会員増強を図つ



平成28年度 レクダンス部 2016.7.10



「嫁っこさ来い」スポーツプラザ藤崎 令和元年12月12日

#### 中南郡老連芸能発表会

#### 中止のお知らせ

12月18日(金)に計画しておりました今年度の中南郡老連主催の芸能発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止することになりました。

皆様方には、年末の恒例行事で楽しみにしていただいておりますが、大変残念ですが今年度は中止といたします。今後は感染拡大状況を確認しながら検討し実施していきます。

第三次感染が全国的に拡大しております。県内では、弘前市・五所川原市・青森市・八戸市で、つい最近まで感染者集団(クラスター)が起きました。冬期間は空気が乾燥し、インフルエンザと同時感染も考えられます。

非常に感染力が強く、我々高齢者が重症化し易い事も第三次感染の特徴だと報じられています。年末・年始は近親者が集まる機会が多く、遠方からの方々の移動も多くなります。出来るだけ不要不急の外出を避け、三密(密閉・密集・密接)近距離での会話を出来るだけ避けるよう心がけて下さい。

### 先輩に学ぶ 旧藤崎町老連文集「白寿」から 第一号 昭和57年度 (六)

#### 初学者のための俳句雑感

木挽町 福士 清  
佐藤 実穂

石垣の反りし城址や秋の風  
作者は花巻市の住民。素材は盛岡市の岩手公園（不來方城）の寸描であろう。筆者も在盛のころ、公園内にある、豊で計算すれば約八・九枚もある石垣を仰ぎ、その歴史、人力の偉大さ、住民達の労苦をしのび登ろうとしたが30cmにも達し得なかつた。「石」「秋風」といえば、「石山の石より白し秋の風……松尾芭蕉」の句がある。芭蕉の句には鋭い感覚的秋の情趣がこめられているが、実穂氏の句、写実的で力強く描かれているようだが、今一步迫力が欲しい。あるいは、作者が素材に対しまだ観察が浅い……？

それで筆者は、「石垣の反り立つ城址や秋の空」と筆を加えた。「秋の風」を「秋の空」と改めたのは、芭蕉の句との類想を避け、大きく高々とした石垣と、すがすがしい秋空を描くことにより、石川啄木の「不來方のお城の跡の草に臥て空に吸はれし十五のころ」と似た調子を情趣をこめたら……と。

青立ちの稲へ華燭の灯の伸び来」と筆を加えた。作者は岩手県雫石町の住民。この作品で目立つのは、文法上の「の」「へ」「を」という助詞多用にある。俳人は「一句一動詞」と言って散文芸術（散文詩、小説、エッセイ、ルポルターージュ）の世界とは違った特別の叙法がある。その一つは、饒もしない。二つには、作者の意思を強く詠わない。この二つをつとめて抑え、具体的なことを客観的に写生し、音楽的な中にことを基本とする。

「青立ち」の句、東北地方の農村を平明に十七音字の詩形に詠んでるが、散文的興味に流れている。特に下五の「灯をもらす」は情感がうすくリズムも薄い。結婚披露宴のともしびの明かりなら生き生きしたリズムが欲しい。それで原句を生かし、

「青立ちの稲に華燭の灯の伸び来」と筆を加えた。  
花八ッ手屋根石光る蚤の路地  
似内 清子

川柳青き風湧き光り湧く  
夜ざくらや女にもどる薄化粧  
似内 清子

真旅行もあり感覚的である。  
掲出作品の「花八ッ手」は太平洋と日本海側の立地条件とで異なるが、南の暖かい土地に自生し、冬の寒気の

中でも繁茂しながら、初冬のころからやや黄色がかった球状の小花をつける植物で、「日のぬくみ消しゆく風や花八ッ手……徳川夏川女」からもその性格が知れる。さて作品中七の「屋根石光る」のころといえ、明け方とも夕方ともとれるが、矢張り海の水平線上から朝日がのぼり輝くころの情景と、読者が理解したら、作者もほほ笑みを漏らすことと思う。

沿岸漁業地帯は夕方の出漁が多く、午前中に港に帰船する。港はこのころが一番活気があり、最も多忙な時である。朝晴れであるがまだうそ寒い漁師町の路地に、玄関に植え付けてある八ッ手が凛乎と咲いているという句意であろう。

原句の下五が「浜の家」と表出していたが、やや具体性に欠け、生活も情景にも浅さを感じたので、「蚤の路地」と筆を加え改めた。

注……「緑」誌は岩手県石鳥谷町藤原悠々楼氏主宰の月間俳句雑誌で、筆者がこの誌の選句を担当していたものである。稿はこの誌から抜粋し多少筆を加え分かりやすくしたつもりである。

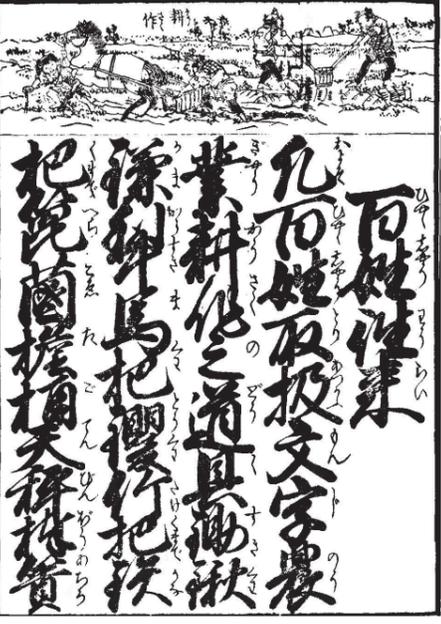
### 古文書に学ぶ (1)

【百姓往来】江戸書林版 ①

今回から幕末の天保13年（一八四二）に出版された【百姓往来】を題材にし、当時の農民の生活や教育の様子などを知りたいと思ひ取り上げた。併せて古文書解説に挑戦することにした。

古文書解説は初めてなので困難を伴うと思うが、各種の解説書や辞典類を参考に進めることとする。何とか頭の体操のつもりで続けていきたいものである。解読の間違ひ等も発生すると思うが、その時は遠慮無く指摘して頂ければ幸いである。

【百姓往来】などの往来物は多数出版され、手習所や寺子屋の教科書として使われ、全国に流布したと思われる。写本も多く作られており、内容もより平易になったものや内容が多くなったものもある。これは、国立国会図書館デジタルコレクションの公開資料から使用した。



今回から紹介する【百姓往来】は、ふりがな付きであり解読し易いものであるが、変体仮名で記述されており、現在学校で使用されている現代仮名遣いとは違うので、読み下し文は「現代仮名遣い」で表記することにした。

#### 漢字文

百姓往来

凡そ百姓取扱文字農  
業耕作の道具鋤  
鎌犁馬把鍬竹把鉄  
把篋齒擔桶天秤棒

#### 読み下し文

凡そ百姓取扱文字農  
業耕作の道具 鋤 鎌 犁 馬把 鍬 竹把 鉄把 篋 齒 擔桶 天秤棒

◆鋤… 刃の部分と柄が直線上に繋がっており、溝を掘るのに使われたと思われる。

◆鋤… 刃の部分柄の部分と鋭角に繋がりが、現在使われている物と同じで、用途によって角度が異なる。牛馬に引かせ田畑を耕す道具

◆犁… 地方によって形が異なる。牛馬に引かせ土を砕いたり

◆馬把… 牛馬に引かせ土を砕いたりしたりする道具で、津軽地方では「まんが」と言った。

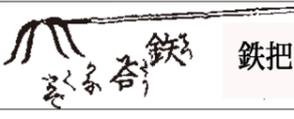
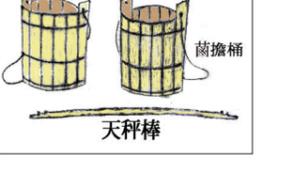
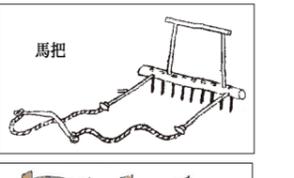
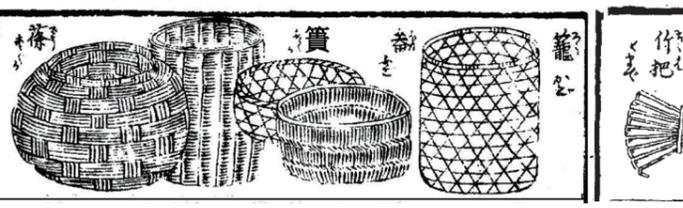
◆鍬… 刃が全て鉄で厚く重く出来ている鍬で、開拓や荒地地を耕やすのに使われた。

◆竹把… 共通語では「竹熊手」であるが、津軽では「がらばき」と言い、現在でも購入できる。

◆鉄把… 先端部が鉄で出来ており、砕土や土をならすのに使った。

◆齒擔桶… 下肥を運搬するための桶で天秤棒を使い運びながら施肥した桶は尿と同義語である。

◆篋… 収穫物をいれる竹製の籠で編み目が細かく、小粒の穀物でも漏れることはなかった。



#### 歯なしの話 105

「緒方洪庵」——JIN——コロナ  
緒方洪庵は言わずと知れた江戸時代の医師であり蘭学

者である。長崎にてオランダの医師に医学を学び人々に医療を施した。実に多くの門人たちを指導し、近代医学や洋学の賢人たちを輩出させた。その中には福沢諭吉、大鳥圭介、大村益次郎等々、明治維新に活躍した人材がいた。

さて、JINは、というテレビドラマである。かつて「まんてん」と漫画家「村上もとか」による漫画を原作としたものであり、現代の外科医師が幕末へタイムスリップしたというストーリーである。

洪庵は当時は天然痘の治療に貢献、コレラに対しても最善を尽くしたのである。そして未来の世界から来て現代医学の知識と技能を備えているJIN（南方仁）と巡り会い、江戸の医療者として、想像を超えた知識・能力に感銘を受け、互いに手を取り合って江戸庶民の健康に奔走するのである。このドラマのタイムリーな所は、今、現代の我々が直面している様々な困難を抱えたコロナ感染症と似たシチュエーション（場面）と重なり合うからと、【白寿】の原稿に取り上げて頂いた次第である。

現代医学下における我々にしても、まだまだ、この感染症を押しさえ込められているとは言えない。ましてや、江戸時代においては尚更である。

一方で現代医学の知識を持っているJINにしても、薬・材料・器具・器材等々が不足している時代においては、今日のような条件下と違つて実力が発揮出来たわけでも無いのである。そこが洪庵とJINがお互いに助け合つて人民の病に立ち向かつていこうと協力し合う、誠に楽しく現代医療もかかあるべきかと思わせるのである。

多分、現代の科学力をもってすれば年末か来年あたりには、コロナに打ち勝っているかもしれない。そうなら嬉しいのである。

### 川柳

アア甘しひとりランチの海苔茶漬  
小笠原みなみ

食へ歩き我慢のいた特殊だ  
佐々木トミエ

張りかえた障子仕上げに霧を吹く  
木村 羊川

地球儀も病んでマスクを付けている  
野呂 文坊

夫婦とも元気な旅は続かない  
福井 伝馬

コロナよりおしゃれマスクの目立ちがり  
清水 稼志男